

地域密着型サービス評価の自己評価票(2号館)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	利用者一人ひとりを尊重し、安心と信頼のもとで地域の一員として生活して頂けることを第一とした理念を事業所として作りあげている	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	介護をしていく上で、理念を基本とした介護が最も大切である。理念にそぐわない対応があった場合は、職員間でお互い注意をしい理念を確認し日々の質の向上に取り組んでいる	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	御家族には折にふれ伝えられていると思う。地域の人々には運営推進委員会や地域の会合で話しをさせて頂き、理解してもらえよう取り組んでいる	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	ホームは地域の方の沢山の畑に囲まれている中でも菊の畑を作っている方より菊の花をいただく機会が多く、ホームにまた利用者の居室等に飾って過ごしている。ホームでも野菜を作っているのでおすそ分けをしたり、また近隣の人々の散歩コースになっているため挨拶をするなど日常的なお付き合いはできている	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の子供たちがボランティアで来てくれることもあり、地域交流はあるものの、地域の行事に利用者と共に参加するまでには至っていない	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方からの要望により、認知症の理解をして頂くため、利用者のプライバシーに配慮し、事業所の取り組み等を地域の会合にて職員が話しをさせて頂き理解を得られた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的について運営者を始め全職員が理解している 改善点があれば時間を措かず、すぐに改善できるよう話し合い・取組・実践できるように努めている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の区長さん、民生委員、老人会の会長等にご理解ご協力をいただき市町村担当者も加えて開催している 会議の際は事業所の理念や取り組み内容を話し合い、地域の理解と支援を得るよう取り組んでいる		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の手続きや事業推進にあたり、市の担当者が訪問する等、連携をとれる体制をつくり、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいけるよう努めていく。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度等に関して職員は理解しているが、成年後見が必要なケースでは特定の職員が対応することになっている		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、全職員が理解を図り虐待の防止に努めている。また職員がセミナーなどに参加し報告している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を説明し、事業所で出来ること出来ないことを明確に説明、ご家族からは疑問点を引き出し、重度化や看取りについての対応など詳しく説明し、同意を得るようにしている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が言いやすい職員を通して伝わってくることが多い。その際すぐに利用者にとって何が一番良い対応なのかを全職員で話し合い、改善・実施し特定の職員の中に埋もれさせないようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には大きな変化がある、ないに限らず利用者の状況を具体的に報告、電話で報告することもある。またホーム便りなどで暮らしぶりを伝えている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誓約書に苦情に関する相談機関を明示すると共に説明し、玄関には意見箱も設置してある 家族にはまめに面会にきてくれる方が多く、訪問時を利用して不満や要望等を聞き、職員会議やミニカンファレンスで話し合い、そこで出た意見をサービスに反映している		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るよう心掛け、要望や意見など聞くように心がけているが、不満や苦情は言い難い部分も多く、把握しきれていないこともあると思う 利用者の受け入れや職員間の交替等の話し合いは出来ている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者一人一人の生活を出来る限り支えられるよう、余裕をもった人員の確保、ローテーションを組んでいる また必要に応じて職員の配置を考え、急な休みには対応できる人員の確保ができています		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の状況把握のために全職員が責任を持てるようユニットごとの職員の異動は最小限に抑えている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が参加できるようにしている。また働きながら資格取得をする職員が増え質の向上につながっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新設立の事業所の職員の実習の受け入れや、相互の職員がホームの見学などの交流はあるが勉強会などは持つまでに至っていない	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員と親睦会を持つ機会を作るよう努めている また職員のストレスや悩み、職員同士の人間関係を把握したりするよう努め一人一人のストレスの原因に耳を傾け対応していくよう努めている	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も頻繁に現場に来て利用者や過ごし方や職員の個々の業務や悩み等の把握に努めている また現場でおきている状況や変化、職員の努力等の把握にも努めている	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談において、本人の生活状況を把握し、職員が本人から安心して受け入れてもらえるよう信頼関係を作ることに努めている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の立場に立って求めているものの理解をし、家族の思いを受け止める努力をし、事業所としてどのような対応が出来るか話し合っている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所として本人や家族の想い、状況等を確認し出来る限りの対応に努めている 出来ないことは事業所だけで抱え込まず、必要に応じて他のサービス機関につなげ、早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行っている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず事業所を本人や家族に見学してもらうことから始めているが、やむを得ずすぐに利用になった場合には、不安等を解消する為にもご家族や関わっていた方に頻繁に来て頂けるようお願いし安心感を持ってもらえるように努めている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活していく中で利用者からいたわり励ましていただく場面も多くあり、学ぶことも沢山ある 職員は一人一人の思いを共感し理解できている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には御家族が利用者への面会のみで終わることなく職員と家族には話し合いの時間をもって短時間でも職員の思いなどきめ細かく伝えることで、共に支援していくという関係が出来てきた。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には家族が本人を連れ出し食事に行ったり買い物に連れ出してくれる機会が多くなり、本人は家族と離れていても見守られているという実感があり共に本人を支えていく取り組みをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方の面会を多く持ち、本人が喜び安心して頂けるよう支援に努めている。次の訪問などの約束を頂いたり繋がりが途切れないよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が支えあい、共に生活していけるよう場面作りに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	やむおえず退居となった利用者には面会に行ったりその後の相談も受けたりすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけや、発する言葉や行動を注意深く観察し、一人一人の思いや意向の把握に努めている 困難な場合は、家族にその人の人生の今までを聞き、本人本位で考えられるよう努めている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人のこれまでの独自のライフスタイルを大切に考え支持することで本人の動揺・不安を最小限にすることに努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中で本人の残存能力を見落とさぬようつとめている。個々の生活のリズムの把握に努め利用者に安心して生活して頂けるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしさを活かした本人主体の生活が送れるよう家族の意見や要望なども大切にしながら介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(3ヶ月に1度)に介護計画の遂行状況、効果などを評価すると共に、職員が記録する利用者の状況変化や現況、事故報告書、ヒヤリハットメモなど活用し目に見えている変化、見えにくい変化にも配慮しながら、現状に即した計画の作成に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状況変化は、個々の記録に記載。気になる情報は、申し送りノートなども活用し職員間の情報共有の徹底、なるべくリアルタイムでの意見交換を行うよう努めている。それらを介護実績、計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて通院介助や買い物・往診などは行っている 今後ショートステイなどの利用に取り組んでいきたい		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の趣味をいかしたボランティアの受け入れなどを行っていたが、教育機関等との協力を得た取り組みが出来ていない		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ボランティアの方による散髪などは行っているが、他のサービスの利用は出来ていない。	○	今後は町で開催される健康教室などにも参加する機会を作っていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	以前に比べ地域包括支援センターを身近に感じる事ができたが制度の現状は把握に留まっている。	○	今後は解決困難な状況に事業所のみで抱えることなく、地域包括支援センターと共同し支援できる様取り組んでいきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人一人の利用前の受診経過を把握し本人家族の希望するかかりつけ医の受診の支援をしている。 利用者に変化があった場合は受診の際手紙などを添え家族より状況報告して頂くようしている。月一回の往診も受けている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	通常は各主治医、往診対応してくれる医師に認知症に対する相談、助言と支持を受けている 困難事例や、せん妄状態に陥った時は認知症専門医への受診を支援し、正しい診断、治療を受けている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在看護職員が不在のため、地域の看護職に相談し健康管理、状態の変化に応じた支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は本人の援助方法に関する情報を医療機関に提供し、頻りに職員が見舞うようにしている また家族とも情報を交換しながら、回復状況の把握、医師、看護士から得た入院中の状況を各職員に伝達し退院後スムーズにホームで生活出来るよう努めている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した際、家族との話し合い(相談)は行っているが意思確認書類の作成はまだ行っていない。家族と職員同士での話し合いも行い方針を定めて対応に努めている。	○	今後は重症化に伴う意思確認書作成、家族への説明、意思確認を行うことが必要
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所内で出来ること出来ないことを家族と話し合い理解を得ている 急変した場合は医療機関につなげている		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当ホームからの住み替えは身体症状の重症化(胃瘻や脳梗塞発症により生活援助に医療行為を伴う)したことが多い 住み替え時には一度入院という過程をとることが多いがある程度時間が過ぎても、転居先には情報提供書を送るなどして、ホームでの様子なども伝えるように努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人のプライバシーに配慮し排泄の際はさりげない誘導や言葉かけに心がけている 外部に利用者のプライバシーを漏らさないよう職員間で徹底している	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で本人の願いや嗜好など一人一人に合わせた支援をしている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を職員の都合に合わせる事のないよう職員が利用者に合わせて生活が送れるよう日々心掛け取り組んでいる	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の希望を聞き入れ地域にある理美容店へ出向いたり職員の送迎が難しい時は理美容店からの送迎協力を得ている。また移動が困難な利用者にはボランティアの方の協力を得ている。身支度等は基本的に利用者の意向で決めているが自己決定しにくい利用者には職員と一緒に考えながら支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夏には事業所内で収穫した梅で利用者と職員が梅干しづくりをしたり、自分たちで栽培した野菜を採取し食事を楽しんでいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が自宅と同様これまでの馴染み嗜好品を楽しめるよう一人一人に合わせて支援している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	さりげない声掛けで、排泄の失敗を最小限に抑えるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決まっているが、時間帯は利用者一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。季節によっては足浴等も実施している。入浴を拒む利用者に対しては言葉掛けや対応に工夫し利用者が進んで入浴を楽しめるよう支援している。また羞恥心・恐怖感・負担感等ある利用者には個別の支援もしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調を考慮し、休息をとる支援をしている。夜間スムーズな就寝につなげるため、日中は穏やかな生活を送れるよう取り組んでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや、庭掃き、食事の支度など一人ひとりができる力を活かし、日々生活の中で張り合いが持てるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていることで、本人が少しでも安心感を感じられると理解している。おやつを買いに行ったり、理美容店に行く際、本人からお金を手渡す意識を大切にしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域理美容店へ出掛けたり、好きなおやつを買いに行ったり、またホーム付近への散歩などの支援をしている。また家族訪問時希望により家族と外出して楽しい時間を過ごしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お盆の墓参りや正月の外出、外泊など、一部の利用者が家族と共に過ごせる時間を持てるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもかけやすいような雰囲気作りにつとめ、まわりに気兼ねなくできるような配慮に心がけている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の定期的訪問や知人友人の訪問があり、利用者は楽しい時間をすごしている。また家族面会時には必ず近況を報告し事前に判れば食事を提供し利用者と一緒に食べてもらっている。希望があれば宿泊も可能である。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないということを、全ての職員が認識し介護支援にあたっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は食堂や、本人の居室より自由にデッキに出入りができ、外景を眺めたり、日向ぼっこをしたりして安心と自由で安らぎの暮らしができるよう支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーに配慮しつつ、職員は昼夜を通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮し、個別の見守りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は手の届かない所に保管し、危険防止に取り組んでいる。日常の生活用品は利用者の状況により、職員間で話し合い決めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状況から予測される危険を職員間で把握し、未然に防げるよう支援している。ヒヤリハットと事故報告書を作成し、今後の対策について話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の訓練は一部の職員が講習会などに参加しているが、全職員はできていないので、訓練を行う必要がある。	○	全ての職員が講習会などに参加し応急手当ができるよう取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得、避難訓練を実施し、避難場所は近隣の方の協力を得て、確保している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族より利用者への安全のための拘束の要望がある場合もある。自由な暮らしより本人が生き生きと穏やかに暮らしていることの大切さを説明し納得して頂き支援している。	○	抑圧により利用者を不安にさせることの無いよう日々の介護の中で自由な暮らしの大切さを基本にしながら支援することを続行していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食事、水分、排泄のチェックは毎日行っている。変化があった場合は、状況により、受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬状況をファイルし職員が内容を把握できるようにしている。症状に変化が見られた時は主治医に相談している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表で排泄パターンを把握している。個別の便秘の原因をさぐり、水分や散歩など個々に合わせた支援をしている。また、おやつなど繊維質の多いものをとる工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりに応じたケアを実施している。夜間は義歯を預かり、洗浄している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、個別に水分摂取や残食料などを記録し摂取量を把握している。おかゆやきざみ食、ペーストなど身体機能に応じた食事の支援をしている。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症についてのマニュアルを作成し、職員に渡してある。インフルエンザの予防接種の実施や、手洗いの励行、日常物品の消毒等もまめに行っている。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>まな板、ふきんなどは毎日消毒をし、その他コップなども曜日を決め消毒している。また代表者が米や無農薬野菜を栽培し職員手作りの無添加みそを食卓に提供し安全な食材にとめている。</p>	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関にはプランターを置いたり、裏山から採取した四季折々の花を取り入れ、利用者や家族、近隣の人々に親しみやすく出入りしていただけるようにしている。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>キッチンオープンにし、食事の用意や、調理の音、においなどを感じながら生活している。また四季折々の草花を土手や裏山より採取し、季節感を感じられるよう工夫している。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>デッキには手作りの木製のいすを置き、たばこを吸う利用者や、外の景色をながめながら気の合う同士で対話できるよう工夫している。また和室では自由に昼寝ができるようになっている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していたいすやテーブル、時計や写真立てなどなじみのものを置き、使い慣れたものを活かして暮らしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	暖かい日は窓をオープンにし、夏期には天窓をあけ、においがこもらないようにしている。また消臭剤として竹炭等を置き、工夫している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室には手すりを設置し、ウッドデッキや玄関には、緩やかなスロープを付けている。また、洗面台は車椅子でも使い易い形の物を設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室、トイレ、浴室にネームプレートをかけ、わかるようにしてある。場所を間違えそうになるときは、そのつど職員がさりげなく誘導している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	デッキからは筑波山が見え、車椅子の方も外の景色が楽しめるようになってきている。本人自らが力の低下を防ぐため、デッキ上を歩くことを日課とし活用している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・その人らしさを大切に出来ているかと職員間で日常的に話し合い共有できていると感じている。
- ・理念に合わない対応が職員間であった場合はお互いに注意出来る関係が目標である。
- ・ご家族・友人・親戚などの面会が頻繁にあり、利用者への想いを日々感じて介護に従事できること。
- ・代表者が無農薬野菜やコメなどを栽培し職員による無添加の手作り味噌などを提供し、食の安全にも努めている。